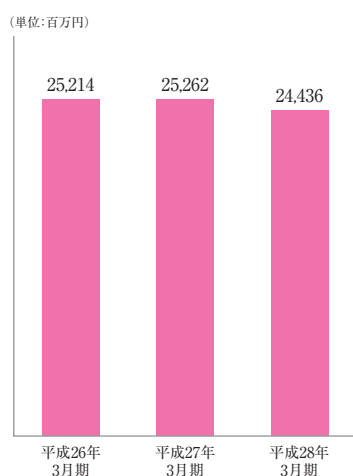


2016年3月期決算ハイライト (単体)

損益の状況

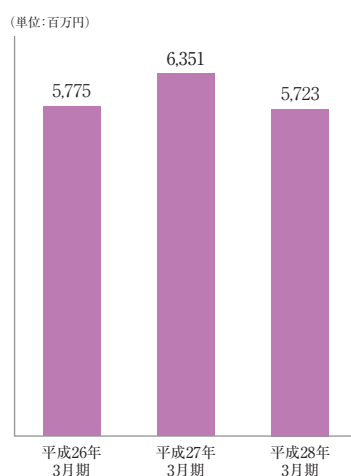
経常収益

24,436百万円
(前期比△825百万円)



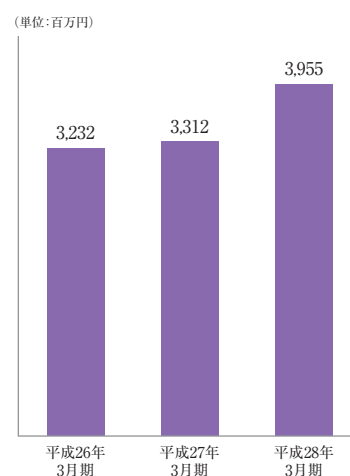
経常利益

5,723百万円
(前期比△627百万円)



当期純利益

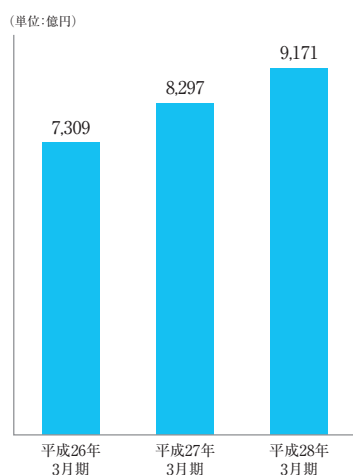
3,955百万円
(前期比+643百万円)



貸出金の状況

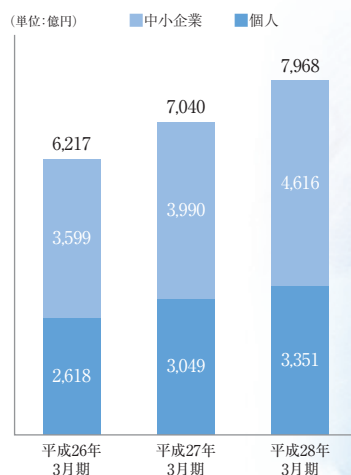
貸出金残高

9,171億円
(前期比+873億円)



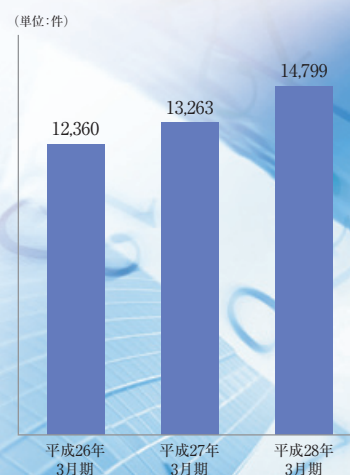
中小企業・個人向け貸出

7,968億円
(前期比+928億円)

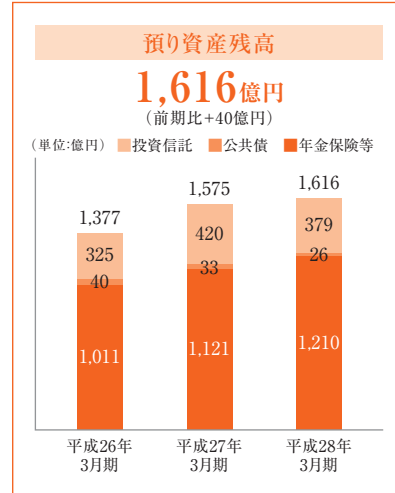
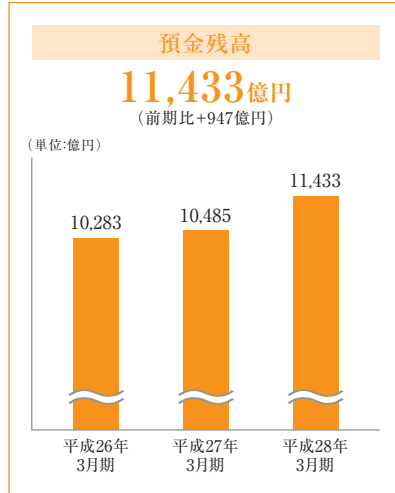


事業所融資先数

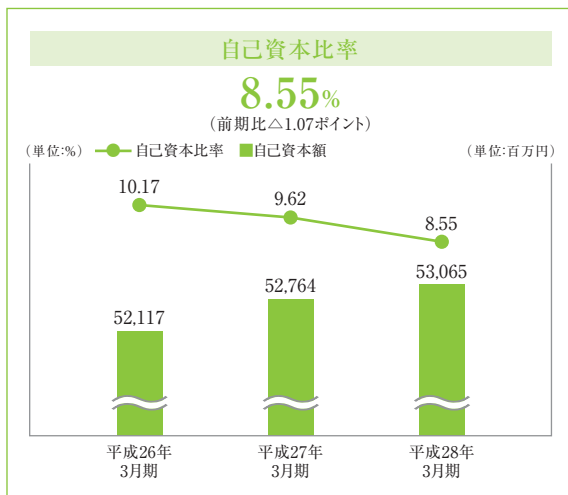
14,799先
(前期比+1,536件)



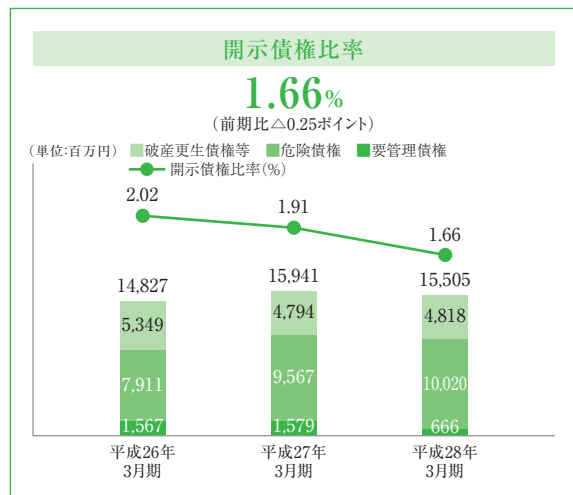
預金等の状況



自己資本比率の状況



不良債権の状況



※平成26年3月末以降はバーゼルⅢ基準

用語解説

経常収益

銀行の通常業務からの収益で、一般企業の売上高にあたるものです。貸出金利息や有価証券利息配当金等の資金運用収益や各種手数料収入の役務取引等収益等により構成されています。

経常利益

経常収益から、預金利息等の資金調達費用や営業経費、与信費用等の経常費用を差し引いたものです。

自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、銀行経営の健全性・安全性を判断する指標です。国内基準行には4%以上を維持することが義務付けられています。当行は平成27年3月末よりオペレーショナルリスク相当額算出において粗利益配分手法を採用しております。(粗利益配分手法：高度なオペレーショナルリスク管理態勢を整備したうえで、金融庁が承認する算出の手法)

開示債権比率

金融再生法に基づき、お客さまの状況に応じて「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」、「正常債権」に分類し、「正常債権」を除く3つの債権の合計額を不良債権額として開示しております。銀行の総与信額のうち、不良債権額の占める割合を開示債権比率としています。